

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 千寿園ケアホーム

作成日 平成 26 年 12 月 24 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
	18	現在も取り組んでいるが『利用者と職員が共に過ごし支え合う』という関係性が、以前に比べると少し弱くなってきたように思える。『職員が介助する立場』と一方方向になりがち場面があるかもしれない。	職員全員が、『事業所はご利用者にとっての家』、『職員はそこで一緒に生活する家族』との思いをもって、『介助する側』『される側』の一方方向ではなく、共に協力し感謝しながら生活を送れることを目標としたい。	グループホーム（事業所）の在り方を、全職員で再度確認する。『お手伝いさせていただいている』『利用者さんに支えていただいている』ことを再認識して、日常的に「ありがとう」と言い合える関係性をまた改めて意識し、構築していきたい。朝礼の場でも話題とし、いつでも心にとめて取り組んでいけるよう改善したい。	1年間
	19	ご家族・職員、それぞれからのご利用者への関わり・支援は常にあるが、共同しての取り組みの実績があまりない。事業所よりご家族への積極的な呼びかけが足りていないと思われる。	課題として、よりご家族との連携を大切に、協力してご家族とともにご利用者を支えていけるよう一層意識をおいて取り組んでいきたい。	よりご家族からのご意見・ご要望をいただけるような関係作りに努め、いただいたご意見は積極的に取り入れていく。ご家族を招いて一緒に楽しんでいただける行事の計画等、工夫していきたい。職員だけの力では足りない面は多いので、必要などころにはご家族に素直に相談するようにしたい。日常的にご家族へのこまめな連絡を心がけ、またご来園時等も、こちらから積極的に困りごとがないかがうようにしたい。遠慮しがちなご利用者・ご家族の心境の理解に努め、職員自身でもよく相手の立場に立って、自分たちで気づいて改善できるよう意識し心がけていきたい。	1年間
	21	重度の認知症の方等、コミュニケーションが困難で孤立しがちなご利用者に対し、他利用者の輪に自然と入れるような支援がまだまだ足りていないように感じる。	困難ではあるが、全ご利用者が互いに認め合い、ねぎらい合い助け合っているような、温かい関係を築いていけるようお手伝いしたい。	難聴や認知症重度の方を踏まえ、利用者同士がうまくコミュニケーションを図ることができるよう、職員で積極的にお手伝いしていく。（利用者を紹介したり、難聴を介助したり、その方の思いを職員で代弁する等）各ご利用者の得意事を理解し、披露していただく等、ご利用者が活躍できる場面や、お互いに支え合えるような場面作りを大切にお手伝いしていきたい。	1年間
	31	各職員、日常的に医師・看護職員と意見交換し指導を受けて学んだりそれぞれに学んだりしているが、今後予測される重度化への対応として、医療面に関しての知識・技術を一層学び環境を整備していく必要がある。	医師・看護職員からの指導を受け、全職員の知識・技術アップを図り、ご利用者・ご家族の『安心』に繋げていきたい。	参考本や勉強会を通じ、高齢者の病気について全職員再度学習し確認する。医師・看護職員に相談し、資料を用いて事業所で特に必要な知識・技術について集団指導を行ってもらう。外部で行われる研修会に積極的に参加する。重度化した場合の対応について、経営者側とも再度確認し、一層安心な環境を整えていく。	1年間
	36	ご利用者の尊重・利用者中心ケアについてはこれまででも大切に捉え、日常的に心がけているが、ご利用者への言葉掛け・対応の仕方等、十分とは言えない状況がある。	ご利用者を尊重し、より一層配慮のある、徹底した接遇・マナーアップを目指していきたい。全職員で改善できるよう取り組んでいきたい。ご利用者・ご家族の喜ばれる言葉かけや対応を、相手の立場に立って考え、常に実践できるようにしたい。誤った対応・言葉かけについてはお互いに見逃すことなく、改善できるようにする。	1つ1つの声掛け・接遇の仕方を、相手の立場に立って意識して行えるように訓練していく。利用者を敬い『させていただく』の意識を全職員で再確認する。職員同士でも気付きを伝え合い改善し合える関係性を築いていく。常に利用者を中心として利用者を敬い大切にできる環境作りを、管理者が中心となって指導していく。	1年間

	39	<p>ご利用者の身だしなみや衛生面のお世話に心がけてはいるが、時々ご利用者の服装や身だしなみの手入れが不十分で、反省しなければならないことがある。</p>	<p>ご利用者の身だしなみや衛生面等、ご利用者本人がご自分で気付かれない方が多いため、その分職員でよく気にかけて、さり気なくお手伝いできるように取り組んでいきたい。</p>	<p>困難な方でも更衣の際は一緒に衣類を選ばせていただくという意識を全職員で再確認する。排泄後や食前、手洗い困難な方へはウェットティッシュや消毒液の使用を積極的に促していく。髪や服装の乱れ等、本人本位に立ってよく気にかけて手直しを介助できるよう全職員で意識して取り組んでいく。更衣後の衣類の整えや体位交換介助時の体の態勢、寝具の状態、パット交換時のパットのずれや折れ曲がり等、ご利用者に不快を与えてしまうことが決してないよう、介助終了時には全体の様子を注意深く確認し、自身の介助を責任をもって最後まで徹底することを気を付けていく。自分の介助後の様子は、意識しよく確認していく。また他職員でも気づきがあれば、声を掛け合い、お互いに改善していけるように取り組む。利用者のためにも、ミスをそのまま見過ごさないようにする。</p>	1年間
	52	<p>掃除の時間をもち清掃を行っているが、タンス内の整理や、ベッドまわり・ベッド下・棚の上等、時々清掃や消毒が不十分なことがある。</p>	<p>各ご利用者の居室を、綺麗に整えて、より気持ちよく過ごしていただけるように改善したい。</p>	<p>清掃時間の美化強化と、日常的に職員間でよく気にかけて整理していくことを気付けたい。ご利用者支援でなかなか時間のもてないこともあるが、本人や家族の気持ちに立って、ホーム内・居室の清掃・整理整頓に心掛けたい。ご利用者の大切な生活空間・お部屋であることを一層意識し、綺麗に保てるよう心掛けていきたい。</p>	1年間